

大澤壽人 (1906-1953) は日本近代の最も重要な作曲家のひとりだ。神戸に育ち、

関西学院を卒業後、ボストンとパリに長期留学。デュカやナディア・ブーランジェに学んだ。作品には3つの交響曲や3つのピアノ協奏曲などがある。交響曲第2番とピアノ協奏曲第2番は1935年にパリで初演され、オネゲルやイベールに絶賛された。しかし1936年に帰国してからの人生は順風満帆とは行かなかった。ラヴェルや「フランス6人組」やガーシュウィン等々のスタイルに日本趣味を融合させたモダンすぎる作風は当時の日本の音楽界に受け入れられなかった。大澤は放送や映画や舞台の音楽に活路を見いだした。その畑で名声を得た。けれど若き日の「本格的作品群」は早すぎる死もあって戦後長く忘れられていた。弦楽四重奏曲はボストン時代の1933年の作品。

欧米でも日本でも公の場で演奏された記録は見あたらない。今回が世界初演かもしれない。

ご期待ください！

片山杜秀 (音楽評論家)



出演： クアルテット・エクセルシオ

西野ゆか Vn 山田百子 Vn 吉田有紀子 Va 大友肇 Vc

年間公演60回以上を誇るわが国稀有の常設弦楽四重奏団。東京・京都・札幌の各定期演奏会でベートーヴェンを軸に古典的レパートリーを展開する一方、「ラボ・エクセルシオ」と銘打ち近現代作品を取り上げる斬新な企画も注目を集めてきた。幼児から大学生までの若い世代のための演奏会やコミュニティコンサートを通じ、室内楽の聴衆層拡大にも力を注ぐ。

2000年の伊パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール最高位をはじめコンクール優勝・入賞多数。'08年新日鉄音楽賞、'09年には全曲演奏を担当した「クロノイ・プロトイ」公演が佐治敬三賞を受けるなど、受賞歴も豊富である。サントリーホール「室内楽アカデミー」コーチング・ファカルティとして後進も指導。

'06年ウズベキスタン、'09年英国ならびにルーマニア、'11年には米ホノルルと、海外招聘公演も数を重ねる。慶応義塾大学の課外講座への招聘は、'09、'10年度に引き続き今回で3回目となる。

■ 会場アクセス

東急東横線・日黒線・横浜市営地下鉄グリーンライン

「日吉」駅より徒歩1分

慶応義塾大学日吉キャンパス 協生館「藤原洋記念ホール」

